

インターネットの光と影

教育研究班

嘱託指導主事 中山 博迪



私が自宅のパソコンでインターネットをするようになったのは、今から12年ほど前である。当時は、「パソコン通信時代」からようやく「インターネット時代」へと移りかけた頃でもあった。最初は電話の「アナログ回線」を利用していたが、やがて「ISDN」へと変わり、今は高速回線の「光ファイバー」を利用している。時間を気にせず、またスピードも以前より格段と速くなり大変重宝している。毎日が「インターネットというメディア空間」の中で生活しているといっても過言ではない。

インターネットは、電話や郵便といった通信手段に比べてそのコストも格段に安く、海外との通信も言葉の障害を除けば極めて容易となった。（昨年12月からカナダへ行っていた娘とのコミュニケーションは、電話よりもメールの場合が多かった。）また従来は資本力のある企業等だけがマスメディアを利用して一般大衆に情報を発信することができたが、インターネットではだれもが気軽にホームページを開設し、不特定多数の人々に情報を発信することができるので、資本力の乏しい中小企業や個人経営の皆さんにとっては願ってもない、大変ありがたいツールでもある。（インターネットで売り上げを大幅に伸ばし、急成長した企業や個人経営者は数多くある。）

さらに「開かれた学校づくり」や「学校の説明責任」を果たすための重宝なツールとしても利用され、ほとんどの小・中学校がホームページを開設し、「子どもたちの生き生きとした活動」や「特色ある教育活動」などをWeb上で発信している。

このようにインターネットが普及することにより、あらゆる情報が瞬時に世界の隅々まで、色々な人のもとへ届くようになった。しかも一方通行ではなくて、双方向のコミュニケーションが可能となった。私も花や風景など、自分で撮影した写真などを公開しているプライベートなホームページ『ふおとめもりー』を立ち上げて8年目になるが、全国の見知らぬ方からコメントをいただいたり、「写真を利用させてほしい」（「トキめき冬季国体の公式ホームページ」など）といったメールをいただいたりしている。またいつの間にか外国のサイトにも紹介されるまでになった。インターネットは、柏崎はもとより日本全国さらに国境や人々の立場・境遇の違いなども見事に取り払い、グローバルな、しかもフラットな社会空間を形作ってしまったのである。（私は、これも“規制緩和”の一つだととらえている。）

しかし、このように元々は大変便利な「善意のツール」だったはずのインターネットが、最近では、「ケータイ」などをとおして発生する犯罪や事件などで「悪意のツール」としてにわかに脚光を浴びてきた。チェックシステムを通らない情報を、各人が思うままに、匿名で容易に発信できるインターネットは、悪意ある大人の欲望のはけ口でもあり、あらゆる誘惑がそこにはある。我々大人でさえも目を背けたくなるようなサイトが、無防備にしかも堂々と公開・閲覧されているのである。

インターネットは、社会の進歩に大いに貢献し、現代社会の利便性をはるかに向上させ、今や日常生活には欠かせないツールとなっている。しかしその代償ともいえる「影」の部分にも、しっかりと目を向け、学校や家庭・地域社会そして国（行政機関）が、利便性の裏に潜む「リスク」に真剣に向き合っていないと、これからの子どもたちの将来が危ない。